

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	東消防署救急救助活動事業				会計	款	項目	大	小
					01	09	01	01	12
政策	02	2節 生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）			主管課	東消防署			
施策	2-3	自然災害・都市災害への備えと予防			主管課長	鈴木 孝男			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住者、在勤者等	意図	災害、事故、疾病等による傷病者を、適切な医療機関に迅速に搬送すること。
事業内容	迅速な出動や円滑な救急救助活動を行うための救急救助訓練。市民に対する応急手当普及活動を行い、救命率の向上を図る。			
事業開始から現在までの状況変化	平成21年度から東消防署となり、管轄地域の防火対象物の増加、高齢者人口の増加により救急出場増加が予測される。また、管轄地域には、国道6号線があり、年々交通量が増加していることから、救助活動を要する交通事故に対応するために、平成23年度に兼任救助隊を発足し、救助事故に対応している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	普通救命講習修了者	368	351	307	人	↑↑↑
②	救急件数	1373	1530	1509	件	↓↓↓	
③	救助件数	13	19	18	件	↓↓↓	
④	バイスタンダーCPR件数	21	23	22	件	↑↑↑	
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	兼任救助隊は、消防救助技術大会（障害突破の部）において、千葉県大会、関東大会の予選を6年連続突破し、全国大会に出場しております。				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成27年度	平成28年度	平成29年度	変化により、救急出場件数が年々増加している。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	54,053,000	49,599,281	48,550,000	普通救命講習会等を定期的に開催している。			
事業費(b)(円)	1,343,000	1,544,281	1,566,000	署員は、多種多様化する救急・救助事案に対応するため、訓練、講習会等を定期的に実施している。			
うち一般財源	1,343,000	1,544,281	1,566,000				
職員給与と費(c)(円)	52,710,000	48,055,000	46,984,000				
人役・職員(人)	7.00	7.00	7.00				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	C 対象が広すぎる
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	自治会及び事業所において、救急訓練（AED取扱い訓練）を行い、心肺蘇生法になじんでもらえるようにした。	③取組の課題	各種救急訓練受講者は、高齢者の方々は多くおられるが、若い方々の参加は少ないため、この対応策を考察しなければならない。
②今年度(H29)に実施した取組	上級救命講習を実施し、よりバイスタンダー増加を図り、救命率の向上を目指した。	④今後(H30以降)の改善計画	若い世代の救急訓練参加者増加のため、魅力ある救急訓練内容にしてい